

# 岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

## 第73号

令和4年7月吉日  
発行 岡田宮社務所

郵便番号 806-0063  
北九州市八幡西区岡田町1番1号  
電話 (093) 621-1898  
FAX (093) 621-5330  
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>  
Eメール [okada\\_guu@yahoo.co.jp](mailto:okada_guu@yahoo.co.jp)

# 夏越祭

悪病退散  
無病息災



### 岡田宮夏越祭・ウイルス退散祈願のごあんない

令和四年七月二十九日(金)  
午前九時〜午後九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。今年も、新型コロナウイルス退散祈願も併せて行います。

**大祓神事 午後六時より**  
(今年は、神職と神社総代のみで行います)  
当日ご参拝の方に悪病退散・無病息災の「お札」を授与いたします。魔除けとして玄関に奉斎してください。初穂料は大祓袋に住所氏名を書かれてお納めください。郵送対応も行っていきます。

※今年も神事のみ行います。ちびっこ縁日やステージイベントは全て自粛します。

目次	夏越祭ごあんない	1	神社なぜなぜ問答73	3
	岡県紀行13	2	七五三	4
	花手水で心清めて	3	巫女奉仕者募集	4

# 七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いつそその息災成長を祈る行事です。  
三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しませんともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十一月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。  
なお、令和四年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参りください。

## 記

- 三歳 令和二年生(かぞえ齢)
  - 令和元年生(満年齢)
  - 平成三十一年生(満年齢)
  - 五歳 平成三十年生(かぞえ齢)
  - 平成二十九年生(満年齢)
  - 七歳 平成二十八年生(かぞえ齢)
  - 平成二十七年生(満年齢)
- ※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。  
※毎日午前九時より午後三時五十分まで受付をしています。



### 正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、お神札やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めです。

**奉仕資格**

- ポジティブな人
- 黒髪
- 返事が02秒でできる人
- 報告・連絡・相談ができる人

※書類審査・面接が有ります。

ご希望の方は神社社務所  
電話 (093) 621-1898  
10月15日までにお問い合わせください。



## 有川写真館

岡田神社 STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46  
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00  
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

# ¥27,500~

(四切2枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

# ¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

### 岡田宮と京都吉田家のつながり

万治四年（一六六一）三月付けの「鳥居大事」という表題の古文書（折紙形式、縦三九・〇cm、横五三・五cm）が岡田神社に現存している。

#### 【釈文】

鳥居大事

神座鳥居入於此身

日月宮殿安樂而住

右秘中也、授与波多野圖書

藤原直守訖

慎而莫怠矣

萬治四年三月吉曜日

神道長上兼連印

発給者は「神道長上兼連」、受給者は「波多野図書藤原直守」、当時の岡田宮宮司である。神道長上とは、吉田神道（唯一神道）宗家である京都の公家で吉田神社の神職でもある吉田家当主が称したものである。兼連とは当時の当主吉田兼連（のち兼敬、一六五三〜一七三二）のことである。

### 花手水で心清めて

昨年からのSNSを中心に話題になつている花手水。

元禄十四年（1701）江戸時代に奉納された手水鉢を活用して、当社も三月十九日より季節の花を浮かべた花手水を期間限定で行なつております。

季節を彩る綺麗な花をご覧になり心を清めていただければと思います。



る。吉田氏の本姓は卜部で、九世紀から朝廷の神祇官での地位を得て、やがて神祇官の次官（大副、少副）の地位を継承し、唯一神道創始者の吉田兼俱（一四三五〜一五一一）が「神祇管領勾当長上」・「神道長上」などと称し、神道界の首長であることを自認した。ただ、この文書で吉田兼連は当時無官であったため神道長上と記したと推測される。江戸時代の寛文五年（一六六五）七月、神社・神職の統制のため、幕府は諸社禰宜神主法度（神社法度）を發布した。五か条から成り、その内容は吉田家を中心に置いた神社統制策となつていたので、この法度が出された後、全国の神社・神職が続々と吉田家の傘下に入る。しかし、その四年前には、波多野直守が吉田家の傘下に入っていたことは注目される（岡山紀行3参照）。直守の先見の明であろうか。

さらに興味深いのは、数え九歳の吉田兼連が波多野直守に秘事を伝授したことになつている点である。兼連は五歳の時、父吉田兼起（一六一八〜一五七）を亡くした。寛文二年、従五位下に叙されるものの、元服・侍従任官は同六年である。さらに同八・十二年、吉田神道を学び奥義を授けられていた吉川惟足（一六一六〜九四）から返伝授を受けている。つまり、文面通りに「鳥居大事」の秘事を兼連自身が直守に伝授したとは考えにくいのだが、重要なのは京都の吉田家とのつながりを他の地方神社よりも早く持ったことであろう。また、吉田家も当主が幼少でも神道界の首長の地位を不動のものにしていったと推測される。兼連が神祇権大副となるのは貞享四年（一六八七）である。なお、「鳥居大事」と同年同月付けの「護身神法」授与状（折紙形式、縦三八・六cm、横五三・一cm）も直守は兼連から与えられている。

交通の要衝である黒崎宿熊手の神職であったため、波多野直守は中央の動静に明るかったのかもしれない。（北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 守友 隆）

### 神社なぜ問答 (その73)

#### 天満宮、天神社と御祭神について教えてください。

天満宮や天神社は、学問の神である菅原道真公を祀る神社として一般に知られています。北野天満宮や太宰府天満宮をはじめ、太宰府への西下の折の道真公の足跡地、また御神託や縁故により祀られたものなど、全国に道真公を御祭神とする多数の神社があります。

神社本庁・祭祀祭礼データの祭神別集計を検索すると、関連の御祭神は全国で一万百二十九件祀られています。（ただし、神社合祀（ごうし）などによつて一社に「菅原道真」と「菅公」の二柱を奉祀するような場合もあります）。そのうち、御祭神名を「菅原道真」とするのは八千六百四件、「菅原神」とするのは九百六十一件、「菅原大神」は四百八十二件、「菅原天神」が十五件、「菅公」は四十件、他となります。また、これとは別に道真公と天神との結び付きにより、「天満天神」「天満大自在天神（大政威徳天神）」「火雷天神」などという名称で祀られている例が百九十件あります。

祭祀祭礼データでの御祭神名では、道真公以外の菅原氏の祖神や后神・御子神などは、「菅公御母堂」「菅原道真公の北方」「菅原道真公御子」「菅原是善（道真公の父）」などの御祭神名で祀られています。ですから、一般に「菅公」という呼び方が道真公を指す敬称として用いられているように、「菅原神」「菅原大神」の名称も基本的には道真公を指すものと考えてよさそうです。

さて、道真公がなぜ「天神さま」と呼ばれ信仰されたかですが、ご存じの通り、道真公は右大臣になりましたが、讒言（ざんげん）によつて太宰府で悲運の最期を遂げます。薨去の後、都では雷禍に見舞われ、道真公を無実の罪に陥れた者たちが怪死する事件がおきました。人々は道真公がこの世に怨みをいただいた御霊（ごりょう）となり、そして火雷天神になったとして、北野天満宮・太宰府天満宮を創建し、神として祀るようになったのです。

こうした経緯により、当初から朝野の篤い崇敬を受け、後世においても変わることもなく、明治時代、各神社の社格が定められた折にも北野・太宰府の両天満宮は、人臣を祀る神社として唯一の官幣中社に列せられました。